

きらりかがやく . . .

本誌第30号別刷りの「きょういくベイタウン第7号」で打瀬小学校の卒業研究の学習ボランティアの募集があったことを覚えていますか?実際に研究に取り組んだ6年生たちは、去る3月18日に卒業式を迎え、新しい活躍の場に巣立って行きました。今号では、彼らの取り組み、地域社会のサポート、などを紹介します。

彼らが取り組んだテーマは、自分が興味をもち、調べたいと思ったこと、将来の進路を見据えて勉強しておきたいと思ったことなど、先生や保護者に強制されたのではなく、自発的に考え出したものです。内容は、『野球』、『動物』、『英語の通訳の仕事について』などから、『世界の美女の条件』や『地球誕生から現在まで』などユニークなものもありました。研究方法は、本で調べたり、インターネットで検索したりした上で、より研究を深めるた



いろんな電車があるね

めに、その道のプロたちの話を聞いたり、現場に(例えば、『動物』であれば動物病院に、『ガラス』であればガラス工房に)も出かけて行きました。

この時に大いに力になったのが地域住民による『学習ボランティア』や、地域社会の協力です。98のテーマに対して35の個人・団体の協力が得られ、その道のプロならではの話を聞き、実際に使用する機器や職場を見せて頂き、本当に中身の濃い研究とすることができたようです。『JR幕張電車区』では、たった二人の児童のために、多くの現場の方が1日ばかりで電車の検査・修繕や入換運転の様子などを案内して下さいました。

実際、研究を行った子供たちにインタビューしたところ、「普段なかなか入ることのできない電車の運転室等も見学させてもらって良かった(電車区見学)」、「ガラスの器を造ったのだけれど、夏に1400℃もの熱の前での作業でバテた(ガラス工房体験)」、「元プロ野球選手に実際に教わってうれしかった(野球の研



そうそうもっと腰を落として

究でロッチेमリーンの北川さんに教わって)」など、教室に座っては得ることができない経験を喜んでいました。中には、「教わった後にあった少年野球の試合で、優勝することができた」インタビューに協力してくれた子供たちと、大きな成果に結びついた子もいたようです。



インタビューに協力してくれた子供たちと、大きな成果に結びついた子もいたようです。

『学習ボランティア』として、目の研究に協力した、眼科医でベイタウンにお住まいの儀辺さんにもお話を聞いてみました。「新しい街の新しい小学校の新しい取り組みを応援しようと考えて協力しました。自分で選んだテーマに取り組めることが素晴らしいと思います。内緒ですけど、職場の機器を持ち帰り、実際に使って見せてあげたところ、とても喜んでくれました。最近の子供は何かと押さえつけられることが多いので、夢をもって、自分で調べるということをこれからも続けて欲しいと思います。また、面



動物病院にはいろんな機材があるね

倒を見る先生方も大変かと思いますが、子供にとって得るものが大きいので、これからもぜひこの学習を続けて欲しいと思います。」と語ってくれました。

この取材を通じて感じたことは、打瀬の子供たちに対して、地域社会がとても暖かい目を向け、応援してくれているな、ということです。また、この子供たちの活動を支える、打瀬小の先生方のご苦勞も大変なものだと実感しました。たった一人や二人の生徒のために地域住民や団体に連絡を取り、見学の予約を取り付け、実際に引率する。また、研究のまとめの手伝いをする。どれだけ多くの時間を割いているかと思うと、目のくらむ思いがします。しかし、担当の平野先生が、「私たちがふだんは入れない所に入ることができて、興奮しました。また、画家の方から『絵を書くときは、目でなく心で見ることが大切』と教わり、我々が教室で言うのとは違う重みを感じました。」と、語ってくれたときの目の輝きからは、それらの苦勞を上回る体験を先生方もしているんだな、と感ずることができました。「きらりかがやく」のは、打瀬の子たちだけでなく、打瀬の先生たちでもあり、打瀬の住民たちでもあるようです。

【板東】

またひとつ、思い出がふえた「打瀬小 卒業を祝う会

さる3月4日(土)打瀬小学校にて、6年生には最後の親子レクリエーション「卒業を祝う会」が行なわれました。親子レクリエーションとは、「打瀬の会(他校でいうPTAの会)」の会員である保護者と、先生方が協力して、子どもたちと先生、保護者が楽しくふれあえるイベントを行なうものです。今回の「卒業を祝う会」でも、係のお母さんたちが飲み物やお菓子、会場の準備をしてくださりました。

会の前半は「子どもたちのアルバムより一今までの写真の中でとっておきの一枚」を、アリーナに運んだ大型テレビで見ました。生後一週間の「えっ、誰。○○ちゃんなの!?あれっ、面影あるかなあ?」なほど小さい頃の写真や、今は素敵なレディ(?)なのに…選んだ写真は、大口あけてスイカにかぶりついているファニーフェイス。(もっともっとレディになった時には、この日、写真がみんなにおおげだった事も、またひとつの思い出!?)また、打瀬小は転校生が多いので、「前の学校の友達と撮った写真

です。」というのが多かったのですが、中には家族や親戚まで一緒に写っている写真を持ってきた子もいたり、先生方の子ども時代のお写真も披露していただき、みんな大喜びでした。

後半は、各テーブルに分かれて、お菓子やサンドイッチなどを食べながら談笑。季節的にまだちょっとアリーナは寒かったのですが、お母さん方は温かいコーヒー・紅茶を片手に「卒業研究、なにしたの?」「○○ちゃんらしい研究ね。」「写真、可愛かったわねえ。」「そうそう。

ついこの間入学したと思ったのに、もう卒業。早いわね〜。」など、会話もはずんで、あっと言う間に終了予定時間になってしまいました。最後に、保護者代表の土境内さんから「最近やっと、学校の建物に慣れて、校内を迷わないで歩けるようになったと思ったら、みなさん、もう卒業ですね。

みなさんは、この打瀬小でお友達と遊んだり、先生から教えていただいたことを全部養分にして、中学校に行ってものびのびと育ててください。」と子どもたちに励ましの言葉をいただきました。

この日、保護者のみなさんが子どもたちのために歌った歌は、井上陽水さんの「少年時代」ー「夏が過ぎ 風あざみ誰のあこがれに さまよう 青空に残された 私の心は 夏模様…」。練習する時間がなくて、うまく歌えないかも…と心配されたようですが、子供たちの心に届くように、みなさん思いをこめて歌ったそうです。(浜田)



コミュニティコア情報

設計体制、ようやく決まる!

2001年度末開館を目指すコミュニティコアの設計体制が決まりました。建築主になる県企業庁から仕事を任されるのは、基本計画の策定作業に携わった都市環境研究所(東京都文京区)。設計作業全体のとりまとめ役です。協力事務所として設計・計画 高谷時彦事務所(東京都文京区)が加わり、ここで建築設計を担当します。都市環境研究所でコア建設計画を担当する土田旭さんは「10月をめどに作業を終えたい」との考えです。4月2日にはコミュニティコア研究会の主催でさっそく、設計者と住民との顔合わせの会を開きました。

協力事務所を選ぶにあたっては、ベイタウン内で計画・設計にかかわる専門家グループから「50歳以下でベイタウンで設計の仕事をしたことがない人」との条件で候補者を10人募り、①ベイタウンの評価②コミュニティコアの設計方針③経歴一の三点を確認。高谷さんを選んだのは、「技術的な手堅さや、柔軟な人間性などを評価した結果」(土田さん)といいます。高谷時彦さんは幕張メッセの設計を担当した槇総合計画事務所出身で、独立後に手がけた建物には、世田谷区立知的障害者就労支援センターなどがあります。(茂木)

マリンデッキ 設計者に聞く

環境設計研究所
芝浦工業大学
曾根幸一先生

3月から供用開始になっているマリンデッキの設計について聞いてみました。

Q. マリンデッキの設計はどのようにされたのですか?

A. このマリンデッキはかねてよりベイタウンの景観先導施設(この街に数カ所、街角などに記憶に残るポイントをあらかじめ指定しておく)としてマスタープランに構想されてきたため、私が構想を提案する事になりました。

しかしこの歩道橋は土木施設なので現実の設計では私が全体の監修者、土木設計事務所が主体で、私どもの事務所、構造技術コンサルタント、照明コンサルタントが参加して設計しました。

Q. 設計においてはどのような点に重点をおかれましたか?

A. ここは駅と街を結ぶ主動線であり、また多くの子供や高齢者が公園に足を運ぶ動線でもあることを考え、既に完成している幕張海浜公園の一部の改修をお願いしてスロープで街とむすぶ提案をしています。

Q. デザイン的な特徴を教えてください。

A. デザイン全体は、軽快性、透明性、シンボル性がテーマでした。そのため構造技術者には幕張メッセで活躍された著名な方をお願いし、お陰でエレベーターシャフトなどはここだけのオリジナルな細部を持っています。ただ、公園側のスロープの階

段や手すりのデザインについて上今ひとつシンプルな案を提案しましたが、既製品の手すりになってしまったことは返す返すも残念です。照明の点滅は照明コンサルタントの方が仕組んだ演出の要素で不規則性を仕掛けています。

Q. 身障者の方への対応は?

A. 建物の2階床高さとの関係と消防活動の動線確保・敷地地長さ・店舗の間口などからスロープの身障者基準が遵守できていません。そこで両端に身障者用のエレベーターを設置することにしました。

Q. 最後にベイタウンに対する先生の思い入れをお聞かせ下さい。

A. 私どもがこの街、ベイタウンづくりに参加してもう10年がたちました。この間様々な難関に出会いましたが最大の問題は市況の変化です。またこの街は事業者が消費者全体のニーズを嗅ぎとりながら企画や設計が進められてきました。この点、わが国の消費者はきわめて保守的で、なかなか新しい試みができないという悩みも持っています。建築界あるいはデザイン界から見るとレトロでありアナクロだと思われる側面もあるのです。しかしすでに8650人の方々が生かされて「まあまあ」程度の評価はうけている。この辺を原動力にもう少しがんばります。(取材:金)

祝開通

設計者が決まって、いよいよ2001年度末開館に向けて本格準備に入るコミュニティコア。今回は、コア建設計画にペイタウン住民の声を反映させて、より使いやすい施設にしていこうと活動する住民組織「コミュニティコア研究会」の代表を設立以来3年間にわたって務める下川正晴さん(50歳)の登場です。大手新聞社の外信部記者としてみづから「会社人間だった」と振り返る下川さんが地域活動に身を投じるようになったきっかけは、心筋梗塞で自宅療養を余儀なくされたこと。住民要望の実現に向けて役所にかみつく姿には、学生運動の経験をもつ新聞記者の日常が顔をのぞかせています。

下川さんの仕事は新聞記者。東南アジアを活動の場とする特派員でした。韓国のソウルからタイのバンコクに任地が変わると同時に、ご家族を一足先に帰国させ、ご自身は単身赴任することに。日本での住まいとして選んだのが、ペイタウンでした。

「ソウルに赴任していたころ、世界卓球選手権の取材で幕張メッセに来たことがあって、そのとき海沿いの風景が気に入った、というのがきっかけ。バンコクに任地が変わった後、ペイタウンでの募集を知って、さっそく申し込んだんやけど、そのときはハズレてしまった。でも、すぐ連絡してキャンセルしたら教えてくれて言うて、それでいまのところに住むことになった」

転機が訪れたのは、それから間もなく。下川さんは異国の地で倒れてしまいます。原因は心筋梗塞。3週間ほどの入院生活を経て、帰国の途につくことになりました。ところが日本でも、再び倒れてしまい、県立病院に3週間ほど入院するはめに。退院後は自宅療養を余儀なくされ、暮らしは一変します。



「ペイタウンでいちばん好きな場所は？」との問い掛けに、少し間を置いて「コアの予定地でなんか始まったよ」との答え。下川さんなら、やっぱりここでしょう。コア予定地で。

「それまで会社人間としてやってきたけど、世の中の役に立つことをやるのも50代を迎える者の責務やないか。だれもがみんな、それぞれの持ち味を発揮するのが大事」

下川さんは地域活動での「一人一仕事」主義を力説します。中産階級の縮図とも言えるペイタウンには、銀行員もいれば公認会計士もいるといったように、本業で培ったノウハウや経験をもつ人材が豊富にいるはず。こうした「資産」を生かすことができれば、住民の力で相当なことまでできる、と言います。

「仏作って魂入れず、ではだめ。文化活動や福祉活動、国際交流や地域交流などをコアで進めていく住民組織を立ち上げるのにこれから力を入れていきたい」コア建設計画がハード面で一段落ついたら、下川さんはソフト面の充実に思いを巡らせています。開館予定の2001年度末に記念イベントを開催しようにも、いまのままでは企画・実行体制ともに不十分。住民主権のいろんなイベントをコアで、しかも収益事業としてできないものか、模索中です。

「幕張メッセでやっていた幕張映画祭を復活させたい。映画研究会を立ち上げるのもいい。日本の映画には、例えば『寅さん』にだって英語字幕のついたものがある。それを上映すれば、このあたりの外国人は見に来るやろ」

学生時代は年間200本の映画を鑑賞し、ソウル時代には韓国のスポーツ新聞に韓国映画評を寄稿していたという下川さんの夢は、映画を通じた国際交流の機会をつくること。「手前、生国と発しますは……」で始まる寅さんの決まり文句を英語ではどう言うのか、日本人だって、見慣れた映画でも好奇心から足を運ぶのでは。(茂木)

ペイタウンナーによる表記のフォーラムを5月28日(日)に行います。第1部「これまでの5年」では、デザイン会議、企業庁の各代表をパネラーにお呼びし、5年間の成果と問題点を整理します。第2部では幾つかの分科会に分かれて、ペイタウンの現在と将来について考えたいと思います。みなさんの中で分科会をや

てみたい方、話し合いたいテーマがあるという方は、ぜひ下記までご連絡ください。(締め切り：4月15日) 連絡先：村岡英裕(ペイタウン・フォーラム Vol.3 企画責任者) 公園東の街 (274)1632、E-mai: hmura@ibm.net

幕張ペイタウン街開き5周年ミレニアム企画
ペイタウン・フォーラム Vol. 3
「5年、そして10000人の街ができた」分科会テーマ、担当者を大募集!

探訪日記

深夜のバーミヤンにだれが来る?

2月29日、リンクス上に開店した中華系ファミリーレストラン「バーミヤン」。営業時間が深夜2時まで、ということもあって、出店前には住環境の悪化を懸念する声が多量に出ました。開店後、深夜のバーミヤンにはどんな人がやって来るのでしょうか。3月のある日、曜日を分けて四日間をわたって通った感触では、車での来店者が大部分のようですが、ひとりか二人組程度の少人数単位の客がほとんどでした。(茂木)

3月某日(月) 外は寒風吹きすさぶ、冷たい深夜。1時入店。すでに3組の客。20代とおぼしき男性と30代とみられる男性の二組は間もなく退店(以下、年代は推定)。残る一組の、20代女性の二人組も10分後には店を後にする。その後は来店者もなく、広い店内にたった一人。閉店で店を出ると、屋内駐車場からは、千葉ナンバーと八王子ナンバーの2台が走り去っていた。さすがに、歩いて来るような客はいない様子。

3月某日(水) 海浜幕張の駅前には、いわゆるナンパ族の車数台。だが、バーミヤン周辺はいたって静か。この日も1時入店。30代女性二人組の客が二組、すでに店内に。このうち一組は間もなく退店。残る一組も1時30分近くには店を後にした。

この間、1時10分ごろ、30代男性ひとりが来店するものの、やはり1時30分近くに店を出る。閉店後は、屋内駐車場から、千葉ナンバー2台と、習志野、八王子ナンバーそれぞれ1台、合計4台が走り去っていた。

3月某日(金) 週末だけあって、寒風の吹く日よりながら、駅前にはナンパ族の車十数台が「出陣」。この日は1時30分に入店。店内には、30代男性、20代男女、50代男性、20代男性、40代男性、40代男女、20代男性二人組、合計7組の客が。1時30分を過ぎると閑散としていたこれまでの二日とは違う。サラリーマンもいるが、駅から直接向かう人には出会わない。閉店後、屋内駐車場から、千葉、多摩、袖ヶ浦ナンバーの3台が、路上から、千葉、習志野ナンバーの2台が姿を消していた。

3月某日(土) 休日前はさすがににぎやか。1時時点で、20代男性3人と同年代女性一人のグループ、20代男性3人組、30代男性二人組、20代男性3人組、20代女性二人組、40代男女、20代男女二組、合計8組の客が店内に。さらに1時30分には、20代男女一組が来店する。大部分の客は1時30分までの間に店を出たものの、20代男女客二組は閉店までねばる。

教育委員会 第二小学校の校名を公募

千葉市教育委員会では打瀬第二小学校（仮称）の校名を公募することを計画。これは先日連合会役員と教育委員会との打ち合わせの席上明らかにされたもので、教育委員会では、本年7月頃を目途に地域住民および住民代表者に対する説明会を開催し、その会場にて校名の募集を正式に発表する予定。募集に際してはベイトウンニュースその他、地域のメディアを活用し広く住民から案を求める方針です。また、募集名称については文字数の制限や、カタカナを使わない等の条件はつけず住民の自由で斬新な発想を期待しているとのこと。ただし、学校名の決定については千葉市教育委員会内に選考委員会を設けて審査し、最終的には千葉市議会での承認となります。

新設小学校に対するベイトウン住民の期待の高さと、それにこたえる教育委員会の熱意を感じる打ち合わせでした。（松）

通勤経路の一部封鎖について（自治会連合会より）

アウトレットモールの工事進捗に伴い、通勤経路が一部封鎖されます。① 4/5～6/15 現在使用中の駅南口バス停から駅までの通路が封鎖され、通勤経路が京葉線高架下となります。② 6月中旬～8月中旬：京葉線高架下の歩道の整備で高架下が封鎖され、再びアウトレットモールの真中が通勤経路となります。③ 8月中旬～10月末：再度真中が封鎖され、高架下が通勤経路となります。



都市公団
www.udc.go.jp



災害復興住宅として、公団が公営住宅（兵庫県営／神戸市営）を計画・建設しています。ここでは震災により失われた人のかかわり、街との関わりを再構築することを目標に、コミュニティ参加型のアートワークが取り入れられています。写真は、ワークショップを通じて居住者の方々が作っているランドスケープ彫刻（だんだん畑）です。

賃貸住宅のお問い合わせは

総合募集センター津田沼案内所 TEL:047-478-3711
公団住宅の駐車場の問い合わせは

編

■久しぶりに1面を担当し、荷が重いなと思ったのですが、関係各位（平野先生、学習ボランティアの方々、編集局松村工場長）の全面的協力により、なんとかまとめることができました（現場見学の写真は平野先生提供、児童インタビューは松村工場長によるものです）。今回貴重な体験ができた子供たちは、今度は自分が大人になったとき、進んで子供のため、地域のための活動に協力する人間となってくれることでしょう。

編集#1-210号 板東司 (T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■桜花爛漫の美しい季節になりましたが、不幸にして花粉症に悩まされています。いまや国民病とも呼べる症状なのに特効薬は無くなるべく外出を控え、外出の際にはマスクとメガネで防備するしかないようで、ウィークデーに身体に蓄積された花粉に犯されぬ週末はほとんど寝込んでいます。今年は花粉が飛び期間も長いようなので、月初めの言葉には相応しくありませんが早く4月も過ぎてくれないかと思っています。

企画#3-220号 金一剛 (T&F211-0388/ikkim@xa2.so-net.or.jp)

■この街に引っ越してきた時、一番最初にお世話になった先生方が、この春の異動で遠い街に行かれてしまいます。長女にお話して下さったように、打瀬中の転校生みんなにいろいろ教えて下さった斉藤教頭先生、次女が転校当日「とっても楽しい先生でよかった。」と言ったのと同じ言葉が子どもたちの寄せ書きに書かれていた打瀬小の平野先生、ベイトウンの

後

子どもたちに代わって一言…ありがとうございます。お元気で！

記者：#公園東 浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

■最近、ニュースの配布会で新しい番街の方たちに手伝っていただいています。皆さん、これからベイトウンで何をやろうか、どうやって友だちをつくろうかと手探り状態のようです。その前向きな姿勢に影響されて、忘れかけていた入居当時、期待に胸ふくらませていたこと、ニュースの制作に参加した頃のことを思い出させてもらっています。家を買って終わりではなく、自分の住むまちを創っていくことの楽しさ、面白さを見つけてほしいと思います。

タウンスケッチ記者：#3-310号 佐藤則子 (T&F211-0090)

■バーミヤン閉店後、20代と思われる男女に話を聞こうと声をかけたら断られてしまいました。そりゃそうだろうな、深夜2時ですもんね。かつて、ベイトウン内をカメラ持って歩いたら警官に「こんにちは」と寄ってこられたこともありました。そんな怪しい人間じゃないのに。それはともかく、夕飯後にもかかわらず中華を喰い続けたので、一段と太ってしまいかねないのが心配です。

記者：#7-301 茂木俊輔 (T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■今年もまた卒業、入学の季節が来ました。この季節は同時に人事異動の時期でもあります。毎年この時期に多くの人々がベイトウンを後にします。小中学校の先生方、そしてベイトウン建設をライフワークのように力を注いできた企業の方々。みなさんと一緒に街作りができたことをとても幸運に思います。どうぞこれからも新しい職場で、ベイトウンで得た経験を活かしてください。そして、いつかまたベイトウンに帰ってくる日をお待ちしています。

技術：#10-612 松村守康 (T&F211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

マリンドッキの自転車走行は危険です。自転車は押して渡すようにお願いします。

(千葉県企業庁より)



ご近所探検

一足早く、春に会いに行って来ました！
「花の美術館」

「淡路花博」が連日大盛況とのこと、でも淡路島まで行かなくても花に親しめる場所がベイタウンから車で10分足らずのところにあります。「千葉市 花の美術館」。春を待ちきれなくて、さっそく出かけてみました。黄、紫、うす紫のパンジーが絨毯のように敷き詰められた前庭を通して、入口を一步入るとありとあらゆる花の濃厚な香りに圧倒されます（花粉症の人は要注意）。

吹き抜けのアトリウムガーデンには、チューリップ、ランタンキュラス、プリムラなどが咲き誇る庭が再現され、一挙に春一色。我が家のガーデニングの参考になりそうな、コンテナガーデンやハンギングバスケットの飾り方が目を引きまします。

また、総ガラス張りの温室には、ハイビスカスや蘭など約500種類、4000株もの熱帯、亜熱帯植物が所狭しと植えられ、ちょっとしたジャングル探検気分。バナナやパイナップル、アボガド、パパイヤなどの果物がなっている姿を初めて見た子どもたちが歓声をあげています。訪ねたときには、残念ながら滝と池が工事中でしたが、普段は千葉市の花「大賀ハス」が見られるそうです。

植物園ではなく「美術館」と銘打っているだけあって、花びらで作ったセーターやバラの刺で作った「座れない椅子」、印象派の画家モネの壁画「睡蓮」の原寸大レプリカといった花にまつわるアートに接することができるのもこの特色です。隣りの手作りフランス料理が自慢の「レストラン ラ・ミュージゼ」では、中庭を眺めながらランチコース（1500円）とシェフのおまかせコース（2800円）が楽しめます（ディナーもあります。予約・問い合わせはTEL.043-270-0087）

取材 / 佐藤



◆花の美術館のゴールデンウィークカレンダー

- 4/25～29 ネイチャープローチの作成講座
- 4/28～30 草花の販売・野菜の即売（9：30～16：00）
- 4/29 花とクラシックのふれあいコンサート
苗木・鉢物無料配布（10：30～、14：00～）各回先着150名。
- 5/2 夏・秋咲き花苗プレゼント（10：00～）先着100名。
- 5/3 春・花のアレンジメントショー
- 5/4 生花を使ったパッチドメのアレンジメント
- 5/5 かぐや姫のアクセサリ
- 5/7 コサージュ作り
- 5/3～7 フラワーアドベンチャー（花の名前を当てながら回ります）

- 開館時間：9：30～16：30
- 休館日：毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）および12月29日～1月3日
- 入館料：大人200円、小・中学生100円
- 団体割引（30名以上）、年間パスポートあり。
- 交通：JR京葉線「稲毛海岸駅」南口よりバス利用2番「海浜プール入口」下車

シリーズ番街紹介 第2回

「パティオス4番街」

前号から始まったシリーズの第2弾です。今回は、「我こそは」と真っ先に手を挙げてくれた、4番街です。それでは、4番街自治会会長の内田さんに紹介してもらいましょう。

プロムナードから4番街を見ると、直線的なルーバーが印象深くお硬い感じの外観です。そんなイメージとは違って、実は一年を通じて緑いっぱいの中庭が、私たちが迎えてくれます。そうです「癒し系の4番街」です。入居した時には、地肌に見える庭に低木がまばらに植わっているだけの荒涼たる姿でした。でも今ではこんなに植物も育ってきました。

そんな広大な中庭の空間を演出しようと、去年の暮れに巨大クリスマスツリー計画が持ち上がり、実行しました。また自治会主催の大きなイベントとしては、9月に納涼祭、12月にホームパーティーを開催します。どちらも多くのサポーターに準備段階から応援していただき、手作りのイベントにこだわっています。その甲斐もあって、毎回多くの参加者で会場は熱気ムンムンです。そして次は5月のベイタウン祭り。恒例の「ラムネ屋さん」を予定しています。



9月の納涼祭



12月のホームパーティー

去る3月18日(土)、平成11年度第5回卒業式が、子供たちのアイデアを元に行われました。

準備は1月からはじまっており、それぞれの役割を果たし切った表情には、安堵と満足の表情が見てとれました。

舞台の上から卒業生登場

卒業生の入場は、舞台の上からでした。男子も女子も、友達から呼名されて深々と礼をして壇を降り入場しました。

始め言葉は、卒業式実行委員長の法月君でした。落ち着いて、どのような式にしたかったのかを満場に語りかけました。

「おめでとう」でうけた卒業証書

国歌斉唱の後、式を中心になる卒業証書授与が行われました。学校長から一人一人「おめでとう」の言葉を掛けられ、しっかりした態度で受け取りました。その後、ブルーの角筒にいれてもらい、席に戻りました。

お別れの言葉と三曲の歌

お別れの言葉は、自分たちで考えた文言。

すっきり、はっきり言えました。

卒業生の歌は「Let's search for tomorrow」。透き通る声のハーモニーでした。

在校生と一緒に歌った曲は「また会う日まで、さようなら」。

ボリュームのある声のアリーナいっぱいに広がりました。

最後の一曲は「さようなら」。心を込めて、在校生に送りました。

保護者代表の言葉は土堤内様からいただきました。思いを込めて子供たちへ語り掛けてくださいました。

締め括りは校歌でした。卒業生に「夢をつかんで欲しい」との願いを込め、みんなで声を響かせました。

退場曲は「あの紙ヒコーキくもり空わって」

3年生以上は縦笛での演奏。1、2年生は拍手で送ります。

笛を演奏する子供たちの引き締まった表情は、こころから送ろうとする気持ちが伝わってきました。

卒業生は一人一人ゆっくりと、花のアーチを1つ、また一つとくぐり退場して行きました。

退場しきった時の司会者、指揮者、伴奏者の表情は、ほっとした(安堵感)・成し遂げた(成就感)・緊張が解けた(虚脱感)が入り交じったものでした。多くの共の気持ちを受けとめ、それぞれの進学先で、夢を持ち活躍して欲しいと心から願っています。

<主な内容と担当>

卒業生入場

男子の紹介

蜂谷 由賀、金子 彩

村岡 真由

女子の紹介

土堤内祐介、三輪 明毅

三橋 亮吾

司会・進行

大林 加菜、熊谷 梓

始めの言葉

卒業式実効委員長

法月 恒太郎

司会・進行

塩崎 隼大

国歌斉唱

伴奏

水野 友莉

司会・進行

小熊 章太

学校長式辞

司会・進行

山崎 摩那

来賓祝辞

司会・進行

磯辺 玲子

来賓紹介等

司会・進行

武 洋一郎

お別れの言葉

司会・進行

森本 麻友

指揮

小畠 幸法、長野 剛

伴奏

笹本 みどり、阿曾 佳苗

北川 了己

校歌斉唱

指揮

幅田 夕穂

伴奏

堀内 摩里絵

終わりの言葉

司会・進行

小俣 智徳

退場曲

指揮

奥村 貢史

伴奏

岡本 梨奈

第5回 卒業証書授与式

打瀬中学校

去る3月10日（金）に打瀬中学校体育館において、卒業証書授与式が厳かに挙行されました。地域の来賓の方をはじめ、卒業生の保護者、在校生、教職員に見守られながら63名の卒業生は、堂々と元気いっぱい卒業していきました。いつも見ている生徒なのに、この日は少し大人になったような印象を受けました。

卒業生を送り出した木村学年主任のコメントです。

卒業式を終えて

3学年主任 木村重雄

3月10日（金曜日）、打瀬中学校の第5回の卒業生を送りだした。13日の月曜日に学校へ行ってみると、私の生活の様子がちょっと変わっていた。朝の会がない・・・。給食を職員室で食べる・・・。掃除の後の学級指導がない・・・。いつもの見慣れた顔がない・・・。だんだんと卒業させた実感がわいてきた。

学年主任としてこの学年を受け持ったとき、「新しいものを作り出す学年にしたい。」と思っていた。今年度の卒業生が、打瀬中学校ではじめて行った試みを思いつくままあげてみると、鎌倉での万歩計計測・1年生の職業体験学習、自然教室のきもためし・修学旅行の関西広域活動・文化祭の切り絵、英語劇、空き缶アート・空飛ぶクジラ展示物・生徒会の募金スタイル変更そして卒業式前の歌舞伎鑑賞教室など多数あげられる。これらのことによって、この学年の存在が打瀬中の歴史の中に確実に刻まれたことであろう。

さて、彼らの立場は、義務教育を終えた現在、地域社会の1年生に入学したのである。これからは自分で選んだ道を自分の責任で歩いていかなければならない。中学校を後にした彼らを、同じ町に住む仲間として、地域の日で、時には暖かく、時に激しく見守って行って欲しい。私が家庭訪問に伺い、歓談やエレベータなどで地域のみなさんとすれ違ったとき、みなさんから「こんにちは」

と声をかけていただいた。これは素晴らしいことだと思った、ぜひ、地域社会の1年生と挨拶や言葉を交わして欲しい。

なぜなら、これからの彼らを教育していくのは彼らの住んでいる地域の人々に他ならないのである。やがて彼らの故郷となる地なのだから。



斉藤教頭先生がご栄転 幸町第三小学校の校長先生になられました。

1番街から6番街までの入居と共にスタートした新設中学校、5年前の創立当時から本校のために、また、地域のために早朝から深夜まで働いて下さいました斉藤教頭先生がこの春の定期異動で幸町第三小学校の校長先生にご栄転になりました。本校の特色有る学校経営を研修するために県内外から来られた年間2000人近い教育関係者の対応にあたってこられました。時には海外からの訪問もあり流暢な英語で説明している姿を拝見できなくなることは誠に残念であります。これからも花を愛し、人を愛し、地域を愛する教頭先生、いつまでもお元気で活躍下さい。

